

20回目の南部美声会
チャリティーショー



3月18日、南部檜山美声会（布施美治会長）主催による『南部美声会チャリティーショー』がジョイよぐらで開催され、1700人を超える多くの来場者で賑わいました。

南部美声会では、地域への貢献活動の一環として毎年、この時期にチャリティーショーを開催しており、今年で20回目。会員など約50人が出演し、民謡や踊りなどを披露したほか、20回目を記念したもち撒ぎが行われ記念の年に相応しいプレミアムなチャリティーショーとなりました。

また、会場入り口には募金箱が設置され、来場者から寄せられた募金が町社会福祉協議会へ寄付されました。

布施会長は「多くの人に支えられて、20回目を迎えることができました。今後もこのチャリティーショーを開催していきたい。」と話していました。

寅の沢ですくすく育つ羊
ふるさと寄付の返礼品にも

大安在海岸に面する寅の沢地区では、現在、多くの羊が放牧されています。

これは、同地区に住む佐藤さんが平成29年から放牧地など羊飼育に向けた取り組みを始め、現在約8畝の放牧地でサフォーク、テクセルの2品種の約150頭を飼育しています。

この春から本格的に出荷を開始し、今年は30頭程度の出荷を見込み、ふるさと寄付の返礼品にも採用される予定です。

生産者は、最終的に600頭くらいの飼育を目標にしているとのこと。今後、上ノ国町の新たな特産になることが期待されます。



相互連携を深める
汐吹・扇石地区合同で交流会を行う



3月10日、汐吹・扇石町内会共催の「ふれあい交流会」が汐吹生活館で開催され、両地区から42人が参加しました。

この交流会は、過疎化が進行し、高齢者が増加している両地区の現状を踏まえ、連携を深めることを目的に初めて開催したもので、町内会や老人クラブの役員同士で交流を深めました。

参加者は両地区の女性会会員が用意した料理に舌鼓を打ちながら、お互いの町内会が抱える課題について語り合ったほか、一緒にカラオケに興じたり、共通の話題に花を咲かせるなど、有意義なひとときを過ごしていました。

企画した小間均汐吹町内会長は「隣の地域同士、お互いに声がけや手助けしあっていければ」と話し、今後も連携した取り組みを予定しているそうです。

きれいな花を咲かせるために
中央区老人クラブ、あじさいを剪定

3月8日から11日にかけて、中央区老人クラブ（小林啓子会長）は、カササギロードの天の川橋から上ノ国郵便局前までの約400坪の区間に植えられた「あじさい」の剪定作業を実施しました。

あじさいの剪定は、通常、花が咲き終わった夏から初秋かけて作業するそうですが、会では積雪で損傷した枝などの手入れを含め、雪解けしたこのタイミングで実施したそうで、会員11人が花芽を傷つけないように気をつけながら作業を進めました。

会長の小林さんは、「きれいな街にしたいという思いで活動してきました。今年もまたきれいな花を咲かせてほしい」と話し、初夏には、きれいな花が行き交う人々の目を楽しませてくれるでしょう。

